

## 国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽」 アーティスト・イン・レジデンスの可能性とその評価

日時 2016年10月22日(土) 13:00~13:20  
場所 滋賀県立陶芸の森 甲賀市信楽産業展示館ホール  
司会 杉山道夫(陶芸の森創作研修課長)

杉山●本日は、関西広域連合ならびに滋賀県主催の国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス」にご参加いただき、ありがとうございます。わたくし、司会を務めさせていただきます陶芸の森の杉山でございます。

それでは開会に先立ちまして、滋賀県知事の三日月大造がみなさまにごあいさつ申し上げます。

### ■開会あいさつ 三日月大造 滋賀県知事

本日ここに、国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽」を関西広域連合と滋賀県との共催により開催できますことを、大変嬉しく思います。

関西広域連合の構成自治体をはじめ、遠方から滋賀県の信楽にお越しいただきました皆様から歓迎申し上げます。関西広域連合では、構成自治体がそれぞれの個性を活かしつつ、観光や文化振興をはじめ、防災、産業振興、医療、環境保全などに一体となって取り組んでいます。特に文化振興の面では、「はなやか関西・文化戦略会議」で方向性を検討いたしまして、関西の文化に親しむ機会の充実や関西文化の内外への魅力発信などに取り組んでいます。昨年から始まりましたこのシンポジウムも、関西の先進的な取組等を共有し、広めることによって、関西全体の文化力の向上につなげていく事業として実施しています。

ここ信楽は、日本六古窯の一つである信楽焼で有名なまちです。良質な陶土が採れることから、土を活かした素朴な風合いの作品が多くの人びとを魅了してきました。742年には、聖武天皇が国家安寧を願って大仏建立を行なうため、紫香楽宮の造営をはじめた地として知られています。わずかな期間であったそうですが、ここに都があったといわれています。

滋賀県立陶芸の森は、このように豊かな歴史と文化を有する信楽に、信楽焼の振興と世界の陶芸文化の発展への貢献を目的として、1990年に開設されました。また、この滋賀県立陶芸の森では、25年以上も前からアーティスト・イン・レジデンス事業を実施し、これまで49か国、延べ1,100人も国内外の作家の皆さんが滞在され、作品を制作して来られました。このような施設でアーティスト・イン・レジデンスの可能性とその評価をテーマとした国際シンポジウムが開催されることは、誠に意義深いことだと考えています。アーティスト・イン・レジデンスは、アーティストのみなさんと地域の人たちとが交流することにより、地域資源の再発見や新しい文化の創造につながっていく効果もあると思います。

本日のシンポジウムをきっかけに、アーティスト・イン・レジデンスが作家の方々や地域の皆さんにどのような刺激、化学反応をもたらすのか、そうした取組がいかに関西の文化の魅力を高めることにつながるのか、活発に議論をいただき、国内外に発信されることを期待しています。

結びに、このシンポジウムの開催にあたりまして、格別の御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申しあげ、開会のあいさつとさせていただきます。